

1 単元名 『河童と蛙』の群読台本を作ろう。
(主な教材：『伝え合う言葉 中学国語1』 教育出版)

2 本単元における言語活動

『河童と蛙』の表現に着目し、ふさわしい群読方法を考えて発表する。(関連：[知識及び技能] (1)オ
[思考力、判断力、表現力等] C(1)イ
[学びに向かう力・人間性等])

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領に示されている「知識及び技能」のうちの「表現の技法」および、「思考力・判断力・表現力等」のうちの「読むこと」の学習課程における「構造と内容の把握」を中心とし、詩の中に出てくる様々な表現・描写に注目して語感を豊かにしたり、場面展開を豊かに理解したりすることをねらいとしている。

教材である『河童と蛙』は、草野心平作の詩である。題名に『河童と蛙』とあるように、登場するのは河童と蛙である。大河童沼という沼で、月夜の晩に、河童が踊っている。その河童の踊りを、一匹の蛙がじっと見ているという設定の詩である。この特徴的な舞台設定と登場人物に、学習者たちはそれだけで興味をもつだろう。話題・題材ともに魅力的な教材である。

言語活動としては、詩の表現に着目して読んだ上で、ふさわしい群読方法を様々に工夫したり発表したりする活動を設定した。作中の言葉を手がかりに想像していくことが、群読方法の工夫につながっていく。このことが詩の豊かな解釈にもつながっていくと考えられる。『河童と蛙』には「るんるんるんぶ〜」等をはじめ、個性的な表現がいくつも登場する。こうした詩の特性を生かして、想像する面白さや仲間と共に表現することの面白さを実感させたい。

また、本単元は音楽科に引き継ぎ、詩の解釈にふさわしいメロディーを創作する活動へつなげていく。音楽科との教科等横断的な学習を通し、「歌」というものが一番身近な「詩」であるということに思い至らせたい。本校では年間を通して様々な合唱活動を行っている。一連の授業で学習した内容を合唱活動に生かすことが期待できる。また、生きていく中で数々触れて行くであろう様々な「歌」を言葉の面からより深く理解することができれば、人生がより豊かになるであろうという、学びの実感をもたせたい。

(2) 生徒の実態

(省略)

(3) 指導観

学習において、生徒がいかに主体的に取り組めるかということは、学習内容の定着に欠かせない要素であるが、主体的に進んで学ぼうとするためには、学習課題に対する解決に向けての意欲がすべての始まりとなる。したがって、まずは意欲をもたせるために、指導者側の「学ばせたいこと」を、生徒側の「学んでみたいこと」になるべく近づけなければならない。「学んでみたいこと」になるには、その題材が自分の日常生活と関わりがある、共感したり批判したりできる（できそうに思える）、自分の苦手な部分を補うものである、学習後に適切な評価（主に認められる評価）がなされる、といった要素が必要だと考える。そうしたことをふまえ、学習活動には常に日常生活や社会生活との関わり、すなわち必然性をもたせ、ゴールを明確にして意欲を喚起したい。

指導の流れとして、はじめにモデルとして群読コンクールの動画を視聴し、単元のゴールをイメージしやすくする。次に、『河童と蛙』の詩に見られる表現技法をその効果について、調べ学習を行う。調べた内容をもとにグループで詩の解釈をすりあわせ、どのように読むのが適切かを話合って考える。当然解釈の異なることも想定されるが、できる限り話し合いにより解決するようにする。そうすることにより、より深く詩や表現を理解することにつながると考えられる。

群読発表の方法としては、「実演」と「動画」の二種類を選択することとする。実演では、実演ならではの臨場感を味わえること、動画では仕上がりを確認し、何度も取り直すことができることなど、それぞれのメリットあるいはデメリットを考えて選ぶように指導する。

グループ分けについては、様々な声のバリエーションを可能にするために、男女混合、6名程度のグループとする。また、国語の得意・不得意についても配慮したグループを設定する。

4 単元の目標

- ・ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (1) オ
- ・ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) イ
- ・ 言葉がもつ価値に気付くとともに、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 (1) オ	①「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 (C (1) イ)	①進んで、表現の技法を理解するとともに、詩を読んで考えたことを基に群読台本を作ろうとしている。

6 指導と評価の計画 4時間扱い (本時3/4)

次	時配	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価規準 (観点) 【方法】
第一次	1	・ 群読コンクールの動画を視聴する。 ・ 詩を声に出して読みリズムを感じる。 ・ 群読台本の作成へ向けて、班ごとに計画を立てる。 ・ 表現技法とその効果について学習する。	・ 単元のゴールを提示し、学習の見通しをもたせる。 ・ 複数の学習方法を提示し、生徒が自分で学習方法を選択できるようにする。	・ 擬人法や反復法などの表現方法について理解している。 (知識・技能①) 【ワークシート・観察】
第二次	1	・ 群読台本を作成する。	・ 前時に学習したことをもとに、どのように表現できるかを考えさせる。 ・ 表現方法の例を提示する。 ・ 解釈が分かれた場合は根拠をもとに話し合うこととする。 ・ 群読台本はタブレットを使い共同編集で作成する。 ・ 詩の言語表現から外れる表現になっていないか確認する。	・ 言語描写をもとに内容や心情を捉え、ふさわしい群読方法について考えている。 (思考・判断・表現①) 【スプレッドシート・観察】
	1 (本時)	・ 群読練習を行い、台本を改善する。	・ 発表方法について「実演」か「動画」かを選択できるようにする。	・ 班での話し合いを通して、進んで台本を見直している。 (主体的に学習に取り組む態度①) 【観察】
第三次	1	・ 群読発表会を行う。	・ 他の班の発表を見て、異なる表現の仕方に触れることで、表現することのおもしろさを実感できるようにする。	・ 他の班の発表を見ることを通して、より良い表現方法について考えている。 (思考・判断・表現①) 【ワークシート・観察】

7 本時の指導 (3/4)

(1) 目標

- ・ 言語描写をもとに内容や心情を捉え、ふさわしい群読方法について考えることができる。
(思考力、判断力、表現力等①)
- ・ 進んで、表現の技法を理解するとともに、詩を読んで考えたことを基に群読台本を作ろうとする。
(学びに向かう力、人間性等①)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価（観点）【方法】	資料
5	1 本時の学習と学習のめあてを知る。 【見いだす】 提示された資料等から学習問題が分かり、自分なりの課題を明確にする。	- 次時の群読発表会へ向けて、練習と台本の見直しを行うことを伝える。 - 単元の計画表をモニターに映し、学習の現在地を確認する。	T V モニター
	詩の表現に合うように、群読の方法を考えよう。		
10	2 二種類の発表方法について、メリットとデメリットを確認する。 ①実演 メリット…臨場感がある。 聞き手の反応に応じて調整ができる。 デメリット…緊張する。 ミスをする可能性がある。 ②動画 メリット…撮り直しができる。 編集・加工できる。 デメリット…時間と場所の確保が必要。	班で話し合い、どちらを選択しても良いこととする。	
25	3 群読練習を行い、必要に応じて台本を改善する。 【広げ深める】 「見方・考え方」を働かせながら自分の考えを伝え、友達の考えを聞いて疑問点を問い直す等、互いに学び合うことを通して多様な考えがあることを理解する。 - 詩の表現や描写にふさわしい群読方法を考える。 - 全員が少なくとも1度は読む。 - 少なくとも1回は通して練習する。 - 台本を修正する場合は、シートをコピーして赤字で修正する。	- 言語表現を根拠に考えているかという点に注目して指導する。 ○表現技法や描写をふまえて、ふさわしい群読方法について考えている。 (思・判・表①) 【ワークシート・観察】 《「努力を要する」と判断した児童生徒への手立て》 - 月の描写や水面の様子を表すオノマトペに注目するように助言し、静と動の表現につなげられるように促す。 ○班での話し合いを通して、進んで台本を見直している。 (態①) 【観察】 《「努力を要する」と判断した児童生徒への手立て》 - 班員の考えに対してどう思うか、なぜそう思うのかを考えるように促す。	タブレット スプレッドシート
10	4 本時の学習を振り返る。 【まとめあげる】 - 思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる。 - 学習の振り返りを行う。学んだこと、課題等を自分の言葉でまとめる。	- ワークシートの計画表に、今日の学習について振り返りをまとめ、自己評価を書き込むように指示する。 - 次時は群読発表会を行うことを伝える。	ワークシート

(3) 板書計画

河童と蛙 草野心平 詩の表現に合うように、 群読の方法を考えよう。	《発表方法》選択制 ①実演 メリット： デメリット：	②動画 メリット： デメリット：	～： ・群読練習 ※詩の表現に合っているか。 ※全員が一度は読む。 ※台本を直す場合 ・別シートにコピー ←	読み方例	・学習の振り返り（5分）
--	---	------------------------------------	---	-------------	---------------------

『河童と蛙』学習プリント①

一年（ ）組 氏名（ ）

一 音読を聞こう

二 この詩の表現の工夫を考えよう

河童と蛙 草野 心平

るるるん るるんぶ
るるんぶ るるん
つんつん つるんぶ
つるんぶ つるん

河童の皿を月すべり。
じゃぶじゃぶ水をじゃぶつかせ。
かおだけ出して。
踊ってる。

るるるん るるんぶ
るるんぶ るるん
つんつん つるんぶ
つるんぶ つるん

大河童沼のぐるりの山は。
ぐるりの山は息をのみ。
あしだの手だのふりまわし。
月もじゃぼじゃぼ沸いている。

るるるん るるんぶ
るるんぶ るるん
つんつん つるんぶ
つるんぶ つるん

立った。立った。水の上。
河童がいきなりぶるつとたち。
天のあたりをねめまわし。
それから。そのまま。

るるるん るるんぶ
るるんぶ るるん
つんつん つるんぶ
つるんぶ つるん

もうその唄もきこえない。
沼の底から泡がいくつかあがってきた。
兎と杵の休火山などもはつきり映し。
月だけひとり。
動かない。

ぐぶうと一と声。
蛙がないた。

◎オノマトペとは何？ どのような効果がある？ この詩のオノマトペは何を表現している？	◎繰り返しことばでどのような効果がある？	◎月はどうなっている？	◎擬人法とは何？ どのような効果がある？	◎「そのまま」どうなった？	◎最後だけに登場する蛙にどのような効果がある？	◎その他
---	----------------------	-------------	----------------------	---------------	-------------------------	------

《参考》群読方法の例

何人で

- ・一人で
- ・二～三人で
- ・全員で

どう読む

- ・強く、弱く
- ・速く、ゆっくり
- ・明るく
- ・静かに

どんな声で

- ・男声、女声、混声
- ・高い声、低い声
- ・響く声
- ・ささやく声

その他

- ・どんなリズム
- ・どこで間をとる

『河童と蛙』の群読台本を作ろう。						組	番	班	氏名			
班目標												
学習時間	主な学習内容と 自分の目標	学習内容									自己評価	
1	学習計画・表現技法	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	A ・ B ・ C
	課題 確認	音読	班ごとに計画		詩の表現についての学習					振り返り		
2	台本作成	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	A ・ B ・ C
	課題 確認	群読台本の作成								振り返り		
3	群読練習・台本改善	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	A ・ B ・ C
	課題 確認	発表方法の確認		群読練習・台本改善					振り返り			
4	群読発表	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	A ・ B ・ C
		班での打ち合わせ		群読発表会					振り返り			